



どりーま通信

第36号 2023年 11月発行

特定非営利活動法人 どりーまサービス

<http://dreamer-service.org/>

どりーま

検索

主な紙面

- 法人事業計画P2
- 感染対策ルポP3
- 介護部門P4~P5
- 多職種P6~P7
- 体操教室P8

「どうするNPO」



理事長 山口 浩志

現在放映中のNHK大河ドラマ「どうする家康」の場面ですが、小牧長久手の戦いで秀吉に圧勝し、勝利に酔いしれる中、家康と手を結んでいた織田信雄が独断で秀吉と和議を結んでしまったことから事態は急変。家康の息子を人質に差し出すよう命じた秀吉と交渉すべく石川数正が名代として大阪城に出向くと、数正に自身の家臣になるよう命じただけでなく更なる和睦の条件を突きつけます。数正は家康に「殿はあの化け物にはかなわない、秀吉の臣下に入るべきだ」と進言します。そこで家康が言い放った言葉が「王道を持つて覇道を制すでした。王道とは、礼儀を持つて接して尊重を得る事で秩序をもたらしめます。覇道とは地位が持つ強制力を行使用することを表します。

私達NPOの重要な役割の一つに「社会課題を解決するためのモデルを創る事」がありますが、現場からの様々な課題解決への取り組みに当たっては、自分の心を揺さぶるきっかけとなる実体験を原動力として「どうするNPO」と問いかけながら王道を歩みたいと思います。

AWAがん対策募金について

NPO法人AWAがん対策募金 理事長 勢井 啓介



当法人は広く県民を対象とし、がん患者並びにその家族の経済的負担を軽くする為の支援、患者・患者会等への活動の支援、在宅緩和ケアにおける支援、がんに関する啓発活動の支援に貢献することを目的とし、活動をしてまいります。

なお、原資は県民の皆様からの募金・商品購入の一部です。複数の県内企業や団体にご協力を頂いております。商品募金や募金箱など6企業1機関。2企業の自販機を37か所に設置していただいております。

広く県民の皆様を知って頂き、仲間を増やしていきたいと思っております。

心のこもった使い道として下記事業を継続し行っておりますので、ご意見等いただければ幸いです。

「がん検診率向上プロジェクト」、

「患者支援（教育費の一部負担）」、

「在宅支援」、

「患者会への支援」

がん検診率向上プロジェクトでは、小中高校における出前講座、専門学校・大学における学生祭、イベント等にて、14年間で約3万枚のメッセージカードを作成していただきました。

患者支援では10年間でがん患者244名に支援、在宅支援では10年間で33ヶ所の訪問介護ステーションに介護用品を寄贈しました。

今後も地域社会に対してがん治療における経済的負担、心のケアに関する事業を行い、少しでもがん患者及び家族の方のお役に立つことができるよう、精一杯活動していきたいと思っております。



AWAがん対策募金

どりーまあ5ヶ年事業計画 ～ノーマライゼーションプラン～

Let the flower of smile bloom! ～笑顔の花を咲かせよう～

VISION 2027 中長期計画2023～2027

4つの柱

- ・地域医療介護連携の強化
- ・デジタル改革
- ・経営基盤の安定化
- ・未来に向けた在宅システムの創造

5年後に向けた宣言

5年後のあるべき姿となる《Vision2027》は地域ごとの課題解決につながる事業部門の連携を構築することを狙いとした「地域医療介護連携の強化」、どりーまあDXを推進するための「デジタル改革」、新型コロナウイルスが影響した厳しい経営環境を乗り越える経営基盤の安定化を目指すとともに、未来に向けた新しい在宅システムのしくみを創り出すことで、地域共生社会に対して貢献してまいります。

5カ年事業計画より抜粋

4つの領域

事業

質の高い事業を行う

住民参加型を基本とするNPOの仕組みをいかにして、ニーズを読み取り、新しいサービスを創出することで、医療・介護連携に結びつけたり、地域の健康増進に役立つ活動の仕組みを創り続ける。

組織力を活かす

地域課題や社会課題の向けて迅速に支援ができる体制づくりを構築していく。またネットワークを活かして法人内の力量では及ばない要望に対しては他団体を調べて要望を出す。

生産性の高い運営体制を築く

ICTを活かし、記録や報告書に関して、提出できかつ共有できるような仕組みを構築する。そのことにより、管理がしやすくなり、文書負担軽減につながる、サービスの生産性に結びつく。

財務体制を強化

新型コロナウイルス感染症影響による経営基盤の不安定化を奪回するためにも新しい需要を導き、今後も厳しい社会環境の変化に直面しても揺るがない財務体制を継続できるような骨太方針をたてる。

運営

組織

(図1)

財務

職員行動指針

寄り添うことで「安心」を提供

地域に寄り添うことで「信頼」を築く

従業員に寄り添うことで「可能性」を実現

みずからに寄り添うことで「夢」を叶える

寄り添う行為に誠意を尽す

(図3)

5カ年経営計画 ～年度別～

2023年	・人事教育制度・職員メンタル支援制度・リーダー育成 ・業務評価分析・経営分析及び対策整備
2024年 (トリプル改定)	・新体制整備・地域分析・法人経営見直し
2025年	5カ年計画評価分析
2026年 (診療報酬改定)	・医療連携再検討・地域分析・経営分析
2027年 (介護報酬改定)	・新経営戦略稼働

(図4)

5カ年経営計画
～次世代への転換準備期～

フェーズ1 (3年間)	構造改革への本格的取り組みと次世代への確かな布石づくり
フェーズ2 (2年間)	成果の刈取りと更なる成長の加速の実現
人財育成	・事務局員資質向上・看護介護員資質向上・リーダー育成・ケアマネジメント育成・食支援サービス向上・総務人事部人材育成
組織	・拠点間連携・本部事務局刷新・業務分掌見直し
渉外営業	・広報・営業・他機関連携
財務	・金融機関連携・財務会計処理・会計管理システム・キャッシュフロー管理
経営戦略	・ニーズ対応型サービス創出・現行経営評価分析・人事評価

(図5)

2021～2020新アクションプラン「豊かな大地を耕す」を立案しましたが、2019年「コロナ感染問題により全ての事業計画の見直しが必要」で、2020～2022スーパーアクションプラン「生まれ変わるNPO」を掲げた3年でした。今後は中長期にわたり2023・2027ノーマライゼーションプラン「笑顔の花を咲かせよう」といたしました。

3カ年計画から
5カ年計画へ

法人のロードマップとして中期(5カ年)計画を立てました。人口動態や高齢化率、雇用の確保などを想定した上でNPOの未来への第1歩を踏み出します。

このことにより、現場の職員が迷うことなく、誇りと自信をもって業務を勧められる指針といたしました。(図1参照)

あるべき姿の構築に向けた取り組み

現在の業務フローや強みや弱みを事業評価とし、今後のあるべき姿を明確化したものを4つの領域にまとめました。

今後5カ年で取り組むべき行動と意思決定を掲げました。(図2参照)

職員行動指針

法人設立以来の理念でもある『寄り添うケア』について説明した言葉です。

言い換えれば「交通ルールがあるから安全な運転ができるように、法人としてのルールを守ることで、組織として、専門職として、地道な積み重ね

で利用者様の安全・安心な暮らしをお守りしてまいります。(図3参照)

年度別事業計画

10年先を見越した5カ年計画でなければなりません。将来の法人がどういう姿に変化していくかを想定することはたやすくありません。しかしどんな状況になっても変わらないビジョンを示すためのマップが必要です。(図4参照)

転換準備期

中期計画を実現するためには、誰のために、どのようなサービスを、どのように提供すべきなのか背景になくはなりません。

「選択と集中」「想像と破壊」「中間見直し」を原則として、二歩二歩を確かめながら歩んでまいります。(図5参照)

＝ 感染症対策ルポ ＝ COVID-19に向き合う現場の勇士たち



これまでの3か年は当法人においても、在宅や高齢者住宅ではコロナ感染症との戦いの苦しい日々がありました。世界中の問題が私たちの身近でいつ起こるかわからない恐怖心があり、それによる対策、体制、規律、仕組み等々を構築してまいりました。現場の様子を紙面を通じてご紹介いたします。

迅速な仕組みづくり

COVID-19でのクラスターでは迅速な仕組みづくりが最重要課題と言っても過言ではありませんでした。各現場と本部が密に連携を取り現場をバックアップ出来る体制づくりを目指し効果的な仕組みを整え感染拡大を防ぐための策を速やかに実施すること。

スタッフの感染予防トレーニング・感染者の隔離・訪問制限など迅速な対応と仕組みは日々の生活を安全に保つための鍵となりました。



川内事業所コロナ発生時の伝達風景

物品管理が生命線

感染拡大を防ぐためには適切な衛生用品・医療機器・薬品・食品などの提供が不可欠です。

定期的な在庫管理と予防的な物品調達施設運営の要となり、欠かせない事でした。しかし全国的な感染拡大に伴い物資の調達には苦労しました。マスク・手袋・防護服・フェイスシールドに始まり食事に使用する使い捨て食器や抗原検査キットなど様々な物品を購入することになりました。



沖洲事業所コロナ発生時の伝達風景

伝達の重み

スタッフと利用者、また家族への情報提供は不可欠で感染拡大を予防するためのガイドラインや予防策を明確に伝える必要がありました。家族様とのコミュニケーションも大切に、利用者様の状況を正確にお伝えすることで安心して頂く事も必要でした。

クラスターを経験しこれらの事が全てきちんとできていたのか…まだまだ反省したり勉強しなければいけないことが多くあります。COVID-19との戦いは終わったわけではないことを肝に銘じてこれからも職員一同心ひとつに感染対策に努めてまいります。

一コマ

基本的な感染対策

一人一人の咳エチケットや手洗いなどの実施がとても重要です。また風邪症状があれば、外出を控えてやむを得ず外出される場合にはマスクを着用しましょう。

感染症は個人だけでなく、他の人にも影響を及ぼします。自分の健康だけでなく、自分の大切な人の健康も守るためにも基本的な感染対策に努めてみんなで協力して感染拡大を防いでいきましょう。



感染症対策

へのご協力をお願いします

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

① 手洗い 正しい手の洗い方

① 流水でよく手を洗った後、石けんをつけ、手のひらをお互にくっつけて洗います。

② 手の甲を洗います。

③ 指先・爪の間を洗います。

④ 指の間を洗います。

⑤ 親指と手のひらを擦り洗いします。

⑥ 手首も洗います。

石けんを洗い流したら、十分に水で洗い、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

② 咳エチケット 3つの咳エチケット

電車やバス、学校などで人が集まる場所でやる

① マスクを着用する (口・鼻を覆う)

② ディッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う

③ 袖で口・鼻を覆う

④ 何もしない、咳やくしゃみをする

正しいマスクの着用

① 鼻と口の両方を覆う

② コム・ヒモを耳にかける

③ 隙間がないよう鼻まで覆う

④ 咳やくしゃみを手で拭く

首相官邸
厚労省

詳しい情報はこちら
厚労省 検索

厚生労働省HP国民の皆様へ(新型コロナウイルス感染症)より

自分らしさを表現する場を！

元祖NPO人を自負

今から20数年介護保険が始まる前、どリーまあでボランティア活動を始めました。

主に在宅での掃除や病院の付添で、始めたばかりの頃にはトラブルもありご迷惑をおかけしたこともありましたが、今から思うと私のおがましさがあつて、反省させられることがたくさんあります。その時に山口代表からかけて頂いた言葉があり「やつてあげる」ではなく「させて頂く」でした。それを聞いてはつとさせられ、未だにその言葉が忘れられません。あのころは若かったこともありそういうことに気付くまででしたが歳を重ねた今は少しわかってきたように思います。自分



有償ボランティア協会会員

藤田 時美さん

有償ボランティアを通じて

住民参加型在宅福祉サービス 有償ボランティア

医療介護分野では人手不足が社会的問題となっており、現場で働きがいを見出しながら活躍している現場の戦士たちをご紹介します。

Care worker



ヘルパーステーション
たすけあい沖洲

二刀流ヘルパーとして



たすけあい沖洲ヘルパー

久米 純子さん

自身が高齢者に近づいていますがこれからも利用者様のお手伝いをさせて頂けることがうれしい今日この頃です。

いつの時代も初心を忘れず

ヘルパーになつて10年現在は流行の二刀流施設と在宅の訪問に携わっています。サ高住と在宅どちらも利用者様の体調は日々変化しており毎日を付けてサービスに当たっています。毎回新しい気付きがあり、そのたびに初心に返つて慎重に接するようにしています。

施設では疑問や判断に困ることがあると看護師や介護職員に相談して協力し合えると言うところ

デイサービスセンター 夢ガーデン



夢ガーデンイベント風景(黄門様と町娘)

日々のくらしの変化を大切に

が心強い所です。適切な判断が出来ない事も申し送るようになり、職員間のコミュニケーションを大切にしています。在宅では利用者様とのコミュニケーションが重要だと感じています。挨拶への返事一つで気分や体調の変化に気づくこともあります。施設での介護技術を在宅へ活かせるように知識の向上に努めたいと思います。



在宅介護の様子

日々笑顔で接することを心がけて

未来の介護の担い手

施設介護で人間みがき



デイサービスセンター夢ファミリー
管理者 山本 智美さん



ボールキャッチできるかな？

どリーまあに入職して4年目になりました。介護職に携わってからは17年が経過しています。この度8月から夢ファミリーの管理者をさせていただく事になりました。管理職は初めてで、子育てをしながらなので、本当に私に管理者が務まるのかと不安でした。もう一度初心に返る気持ちで仕事させていたいています。

人生の先輩達から学ぶ毎日です



花を愛でて心に栄養を

介護をすることが日常となり日々の業務に忙殺され、その意味や相手がどう感じるかといったことに配慮が行き届かなくなってしまうことが多々ある時には立ち止まってケアの意味を考える事も大切な事だなあ、と感じます。「私は今の自分に介護されたいか？」日頃の仕事の在り方について考え直し自分自身を見つめ直す良いきっかけになりました。

仕事と家庭の両立めざして

を充実して過ごしていただける様支援していきたいと思っています。
また利用者様、家族様に夢ファミリーを利用し
て良かったと思ってもらえる様な環境作りに職員
全員で取り組んでいきたいと思っています。



明けない夜はない(沖洲海岸の朝日)



どリーまあ訪問看護のスタッフ達

一致団結



医療介護の仕事では「連携」がキーワードのひとつです。連携とは、互いに連絡をとりながら物事を行なうこと。どリーまあの内部連携での取り組みをご紹介します。

多職種連携
どリーまあ版

在宅に可能性を求めて

どリーまあ訪問看護ステーション



管理者

加藤 久美

4月にどリーまあ訪問看護ステーションに就職、6月より所長に就任致しました。

はじめに、私が訪問看護師を目指したきっかけは「退院された方はどんな生活をされるのだろうか?」と疑問を抱いたことでした。「退院された方の生活で何かお手伝いできることはないか」と考え訪問看護の世界に足を踏み入れました。

在宅看護は病院の看護と違い、利用者様のご自宅に上がらせて頂きケアを行います。病院と同じように…とはいかず壁にぶつかることもあります。その中で「病院と同じ生活がしたいなら在宅療養を選ばない」と教えてく

看護の原点を見失わずがんばります



住宅入居者の健康チェック

れた利用者様に出会い、改めて訪問看護の奥の深さに気づきました。今後もその人らしさを大切にするにはどうすれば良いか考えながらケアを提供していきたいです。

心身共に健康を維持しながら皆様に助けて頂くことも多くあるかもしれませんが今後もよろしくお願

全力投球“をモットーに



作業療法士

市原 結

二人目の出産を終え、育児休暇明けでこの度訪問看護に配属になりました。育児前にはどリーまあキッズよしの川で発達障害の子供たちのリハビリ、支援をしていました。

二人の育児をしながらの職場復帰はブランドもあり正直不安なことも多いですが、子育て世代も多く、苦労を分かち合える仲間がいることに感謝しています。コミュニケーションもとりのやすい環境なので利用者様についての相談も適宜行っています。疾患を抱える利用者様の気持ちに寄り添いながら、少しでも機能改善を図れるように全力で頑張りたいと思いますのでこれからも宜しくお願いします。



仕事・子育てにがんばっています

施設経験を活かして在宅に挑戦



理学療法士

中野 公司

私は、13年間介護老人保健施設で勤務していました。通所リハビリで利用者の方の送迎を行った時、訓練室では見る事が出来ないその方の日常での動作上の問題を目にする事が多々ありました。やはり、少しでも在宅生活を長く送っていただくためには、その人の生活に即したリハビリが重要だと気づき、訪問リハビリの仕事に就きたいと考えようになりました。利用者の方、そのご家族の生活をより良いものにできるリハビリを行えればと考えています。初めてのことで戸惑いもあります。が、少しでも早く戦力になれるよう、精一杯努力していく所存です。これからどうぞよろしく願っています。



リハビリを通して信頼関係をむすぶ

ひだまり訪問看護ステーション

在宅生活を支援したい



理学療法士

大西 麻衣

私は回復期病院でのリハビリ業務に従事してきました。その中で退院後の在宅生活に介入し、より良い生活を送れるように支援したいと思い、訪問看護ステーションへ入職させていただきました。

入職してからは高齢者から子供まで幅広い年齢層の訪問リハビリをさせて頂いております。小児のリハビリはあまり経験がなく不安ではありますが、私自身も二児の母であり、少しでも子育ての経験を生かしながら関わっていけたらと思っています。子育てと仕事の両立は大変ですが、周囲のスタッフの協力もあり、日々充実して仕事が出来ています。これからも利用者様や家族様に寄り添いながら、より良い生活を送って頂ける様に、努力して行きたいと思っています。

居宅介護支援事業所どりーまあ徳島



主任介護支援専門員

谷口 和子

今年4月に居宅介護支援事業所に就職、川内事業所を経て、今現在末広事業所で在宅の利用者様のケアマネージャーとして勤めさせて頂いております。

私が福祉業界に就職したのは、30年前。県外の事業団の特別養護老人ホームの認知症専門介護棟で介護支援員として就労しました。その当時は、介護保険もなく措置入



利用者の立場にたつてよりそう

どりーまあ訪問看護ウェルビーイング宣言(4つのP)

Profesin(活動・成長)

看護を通して利用者様やご家族様の希望の実現に向けた支援を目指します。

Philosophy(理念・方針)

生命、人間としての尊厳及び権利を尊重することを基本とし、最善の看護を目指します。

Personal(自己・個性)

看護を通して人として成長し、技術の向上を目指します。

Pertnership(協働・連帯)

安全で質の高い看護を仲間と共に提供し、多職種との協働により信頼される看護を目指します。

どりーまあサービス看護の心得

所の時代で、高齢者の社会的入院が当たり前の時代でした。間もなく阪神淡路大震災があり、今ほど災害対策が言われておらず、手探りで乗り越えた事が今でも鮮明に頭に浮かびます。井の中の蛙になるのが嫌で、病院のMSWに転職、在宅生活者の支援がしたい、と居宅介護支援事業所に就労し今に至ります。寝たきり老人ゼロ作戦と声高に言われていた時代から家族の形態も地域や社会の状況も大きく変化し、個の時代、個人がいかに生き切るか、死ぬ時まで重い課題を背負わざるを得ないご利用者様やご家族様のご意向に沿ったご支援が提供できるチーム作りが出来ればと思います。宜しくお願い致します。

体操教室

徳島市元気高齢者づくり事業



いつも頼もしい 渡辺会長♡



元気に100才目指します☆

開催日 木曜日
時 間 9:30
場 所 丈六コミュニティセンター

カードがいっぱいになったら景品がもらえます。この日も90代の女性が景品を受け取り素敵な笑顔を見せてくれました。
これからも楽しく体操をして体を動かし、お話をして気持ちもリフレッシュ出来る様頑張ります。皆さんも丈六体操教室に参加してみませんか？

丈六体操教室

丈六教室は約30名が参加しており、男性の参加も徐々に増えて来ています。
現在の会長さんになり以前より更にアクティブな教室となつています。毎週の体操だけではなくコロナ禍はなかなか出来なかつた紅葉狩りやカラオケなどイベントをすることでみんなの交流も深まっています。
時間が来たら受付を済ませ、



「継続は力なり」です

この度も体操教室の様子をご紹介させていただきます。平成16年度から徳島市介護予防事業として始まった「徳島市元気高齢者づくり事業」に法人として平成17年度から参画させていただいており、18年目に入ります。今回は丈六教室と南井上教室のご紹介をさせていただきます。



真剣に!楽しく!!



足腰しっかりきたえて☀

開催日 火曜日・金曜日
時 間 9:30~13:00~
場 所 南井上コミュニティセンター



な女性もいます。「長く続けられることが一番よ!」とも話されています。週2回の体操教室に参加して健康寿命を延ばすことが出来る様緒に楽しみませんか?お待ちしております。

南井上体操教室

南井上体操教室はのどかな環境の中にあり参加者の皆さんは普段からウォーキングなど身体を動かすことが大好きなやる気一杯の方達ばかりです。
今年の夏は暑かつたにも関わらず平均15、6人が参加してくれ、内男性も2人います。
体操が始まるまではワイワイ和やかな空気でしたが、体操が始まると皆さん真剣に取り組み健康寿命を延ばすため運動に励んでいます。
「国府に引越してきてこの体操教室に参加したおかげで



元気と健康を合言葉に



NPO法人AWAがん対策募金様よりご寄贈

ご支援ありがとうございます



どリーむキッズ
児童発達支援管理責任者 麻野美保子



聴診器をご寄贈いただきました



子どもたちの健康管理に活かしています

NPO法人AWAがん対策募金様より患者支援の一環として当法人へ小児用聴診器と電気治療器を寄贈していただきました。御社はがん患者及びその家族のQOL向上に寄与することを主な目標に活動従事されています。当法人も難病や重度の患者様（がん末期の方、経管栄養や在宅酸素療法、人工呼吸器を装着されている方等）の訪問を開設時よりサポートさせていただいています。今回ご寄贈していただいた、小児用聴診器、電気治療器も患者様の在宅支援に大切に使用させていただいています。さっそく現場からは喜びの声が上がっています。今回の支援に関し改めて地域を含め色々な方々の支援により当法人が成り立っている事を感じました。応援していただいている気持ちを活力により一層利用者様に安心安全なサービスに努力して参ります。

研修レポート



どリーむキッズ よしの川
作業療法士 畑 景子

令和5年度 鴨島支援学校夏季公開研修会

とき 令和5年8月23日（水）14時～16時
テーマ 重症心身障がい児者の「できる」を見つけるテクノロジー活用
講師 一般社団法人できわクリエイターズ
代表理事・作業療法士 引地 晶久氏

鴨島支援学校で開催された夏期研修会にオンライン参加させて頂きました。重症心身障がい児者は「できない」だろう「分からない」だろう等の決めつけにより社会参加の機会を得る事が少ない現状があります。しかし、重度の障がいがあっても個々人の能力を最大限に生かすことがICT機器を用いることによって可能性が広がっているとの事でした。

現在、多くの教育現場や療育場面では重症心身障がい児者の活動は受動的なことが多く感覚刺激（音楽を聴く、皮膚への触覚刺激、振動揺れなどの深部感覚・前庭感覚、視覚刺激など）を介助者や支援者が提供することが多くなっており、能動的な活動が少ない要因として身体的・精神的な制限からの目的物に対する操作が困難であることが多いからです。しかし、多くの「できたー」という能動的活動からの成功体験は自己肯定感や存在意義などを育んでくれます。そして、その自分での操作を可能にしつつあるのが視線入力装置です。以前はコンピューターの視線入力装置は重度の障がい児者にとって重要なコミュニケーション手段の一つでありながら大変高価で多くの人が気軽に利用できなかったのですが、2014年に低コストの視線入力装置を使って初歩的な視線入力訓練を行うEyeMotが開発をされ多くの支援学校でも導入されてきています。どのような障がいがあっても社会参加の機会が得られるような支援が少しでも出来るように今回の知識を生かしたいと思います。



令和5年度 研修計画

年	月	全 体 研 修	担当委員会	教育部個別勉強会
5	4月	職業倫理・プライバシー保護と法令遵守	理事長	
	5月	感染症対策	防災・感染対策	
	6月	防災対策	防災・感染対策	障がい療育部門 看護部門
	7月	新入職員研修	総務部	介護部門 リハビリ部門
	8月	各専門部会企画研修		
	9月	身体拘束虐待防止について	身体拘束虐待防止	介護部門
	10月	事故防止・リスク管理	事故防止	看護部門 障がい療育部門
	11月	ハラスメントについて	ハラスメント	リハビリ部門 介護部門
	12月	BCPについて 感染症対策	防災・感染対策	看護部門
6	1月	身体拘束虐待防止について	身体拘束虐待防止	リハビリ部門 看護部門
	2月	事故防止・リスク管理	事故防止	介護部門
	3月	各専門部会フォローアップ研修		

令和5年度 委員会構成(ワーキンググループ)

◎委員長 ○副委員長

部 門	末 広	沖 洲	川 内	北佐古	国 府	よしの川
研修運営	渡越	◎松長	高橋	阿部	○南	浅田
防災対策感染症対策(BCP)	木村	丸山	北村	○福本	◎児島	浅田
身体拘束虐待防止	○久米	◎福居	森	綿瀬	大西	土居
事故防止リスク管理	○齋藤	久米	山本智	◎向井	大森	畑
ハラスメント	棚野	丸山	北村	津田	◎児島	◎山口
広報	◎清水・○藤原・渡越					

令和5年度 専門部門

	リーダ－		リーダ－
介護部	北村 智子	ケアマネジメント部	谷口 和子
児童福祉部	麻野美保子	給食部	濱口ひとみ
住宅部	山口 拓也	地域推進部	山口 拓也